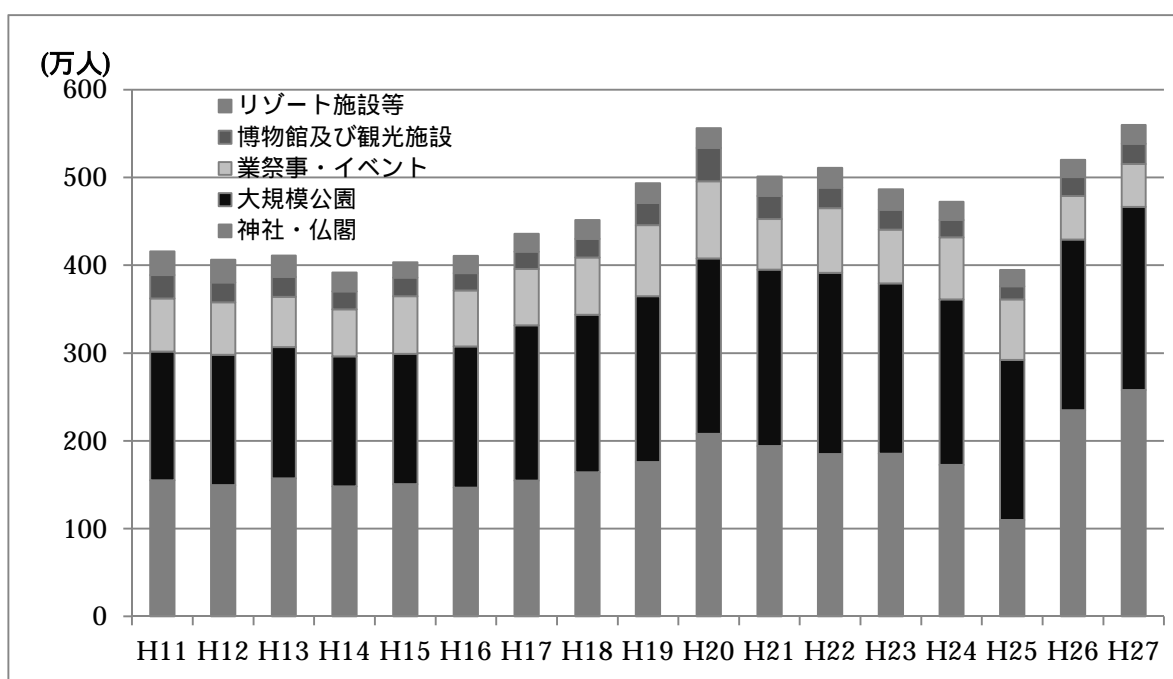


2. 宇治観光の現状と課題

(1) 宇治観光の現状

観光入込客数の推移をみると、平成14年までの400万人から徐々に増加し、源氏物語千年紀にあたる平成20年には、京都府や京都市等との連携による各種イベントの実施や情報発信、また、源氏物語ミュージアムのリニューアル等によって始めて500万人を記録しました。その後も500万人程度を保持していましたが、平成23年の東日本大震災等の影響や、平成24年から始まった平等院鳳凰堂の大改修の影響から、平成25年は400万人を割り込みました。平成26年には平等院鳳凰堂が落慶し、現在は500万人台に回復しています。

< 宇治市の観光入込客数の推移 >



(2) 宇治の観光に関する課題

宇治は世界遺産に登録された平等院や宇治上神社をはじめ、数多くの歴史・文化・観光資源に恵まれており、特に平等院は観光客の約8割以上が訪れるなど、一極集中の状況が顕著となっています。

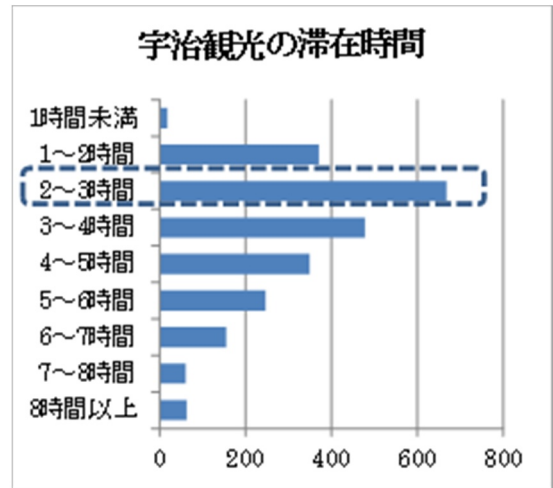
また、観光滞在時間が短いことや、全国の観光地と比較して、初めて宇治を訪れる人の割合が多いことが宇治の特徴である反面、リピーターが少ないことが課題となっています。

これは、平等院の知名度が際立つ一方で、対照的にまちに数多くある他の観光資源の情報が不足していることに加え、宇治のまちの特徴でもある重層的に発展した宇治の歴史や文化を総体として解りやすく伝えられていないことが要因となっていることから、「訪れてよかった」「また来てみたい」と思えるような宇治の魅力発信の強化が必要です。

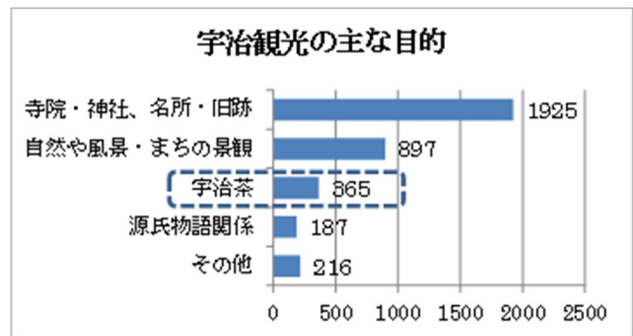
さらに、宇治茶については、その知名度・認知度は高いものの、宇治観光の主な目的とされている方はわずか15%であり、観光の目的になっていないのが現状です。

宇治茶が観光の目的となるためには、単に商品として宇治茶を認識するのではなく、宇治茶の歴史や文化、覆下栽培の独特の茶園風景や茶問屋が軒を連ねるまちなみ景観の魅力についての理解を深めるための発信力の強化が必要です。

この他、宇治を訪れたことがない人への情報発信力の不足や、交通・駐車場の問題、観光基盤の改善・観光地としての演出不足、インバウンド対策不足、おもてなし意識の希薄、商品開発力の不足などが宇治市観光振興計画においても課題としており、ハード・ソフト両面における総合的な取り組みが必要です。



宇治市観光動向調査 (H24年3月)



宇治市観光動向調査 (H24年3月)

- 「訪れてよかった」「また来てみたい」と思えるような、宇治の魅力発信の強化が必要
- 「宇治茶」が観光の目的となるような発信力の強化が必要